

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年4月2日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 山形大学重粒子線がん治療施設設置準備室の機能を強化
2. 学生不祥事防止検討プロジェクトチームからの中間報告
3. 山形大学演習林がふるさと文化財の森に設定
4. 特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯(ともしび)に」
—高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集—
5. 山形大学入学式を挙ります

お 知 ら せ

1. 平成25年度 小白川キャンパス「トワイライト開放講座」の受講生募集
2. 「東北から見える日本—文学・芸術の風景—」を出版

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成25年4月16日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年4月2日
山形大学

山形大学重粒子線がん治療施設設置準備室の機能を強化

山形大学では、重粒子線がん治療施設の設置に向けた機能強化のため、放射線等に関する知見を持つ学識経験者2名を新たに採用しました。

◆いずれも平成25年4月1日に、企画部の専任教授として採用し、重粒子線がん治療施設設置準備室に配置した。

○後藤 彰（ごとう あきら）62歳
前職 放射線医学総合研究所重粒子医科学センター物理工学部
サイクロトロン運転室長
専門分野 サイクロトロン研究

○名雪 哲夫（なゆき てつお）54歳
前職 文部科学省大臣官房付
専門分野 放射線分野、技術行政経験

☆更に、今後、重粒子線関連の専門家1名を採用する予定

（お問い合わせ）
山形大学総務部総務課
（TEL）023-628-4003

平成25年4月2日
山形大学

学生不祥事防止検討プロジェクトチームからの中間報告

本学学生の不祥事が続発したことを受け、教育・学生支援担当理事のもとに設立された「学生不祥事防止検討プロジェクトチーム」が、3月29日に中間報告を行うとともに、新学期、新学年を迎える学生に伝えたい内容について資料を作成しました。

学生不祥事防止検討プロジェクトチーム（以下、「プロジェクトチーム」という。）は、2月末から、計5回開催され、考えられる原因の分析及び対応策の検討を行っています。

平成25年度も引き続き分析等を継続していきますが、3月までの分析経過や今後の進め方を示した中間報告が提出されました。

プロジェクトチームでは、中間報告をとおして、新学期を迎える今、大学として学生に向けて語りかけたいことを、別添の資料「正しく生きることで未来を切り開く」として作成しました。

資料「正しく生きることで未来を切り開く」については、新入生には4月8日（月）に予定されている学生生活オリエンテーション、在学生については、学部オリエンテーション等と、全学生に配付します。

平成25年4月からは、引き続きアドバイザー教員へのヒアリング調査、他大学へのヒアリング調査、外部有識者へのヒアリング調査、一般の方等まで対象を広げたアンケート調査等を行い、分析を深め、より良い対応策を検討していきます。

（お問合せ先）
教育・学生担当副学長
小山清人

山形大学不祥事防止検討プロジェクト・中間報告

平成 25 年 3 月 31 日

山形大学不祥事防止検討プロジェクトチーム

1. 概要

平成 24 年度に多発した学生の不祥事を受け、山形大学不祥事防止検討プロジェクトチームが結成された。このプロジェクトは、不祥事が起きた原因を具体的な個々の事例から掘り下げ、なぜこれらの不祥事が発生するに至ったかの背景と問題点などを解析し、再発防止策を検討することを目的としている。

プロジェクトメンバーは山形大学の教職員 5 名で構成されている。内訳は座長を含む教員 3 名と職員 2 名となっている。平成 25 年 2 月 27 日にプロジェクトがスタートし、3 月末に中間報告、9 月に最終報告を提出することを目指し、調査分析を行っている。

3 月末までに 5 回の会合が開催された。その間、過去 9 年分の不祥事案データを収集し分析すると共に、不祥事を起こした学生のアドバイザー教員や学内の識者に対するヒアリングを行った。本報告はこれまでの中間報告をするものである。

なお、不祥事を起こした学生やアドバイザー教員を始めとする関係者に関しては、倫理的な配慮をするよう心掛けている。具体的には不祥事を起こした学生の現在と将来について不利益が生じないよう、学生本人及び関係者を特定できる情報の一切を削除している。

2. 情報分析

2-1. 過去の発生状況

本プロジェクトチームの最初の取組みとして過去の不祥事案データを収集した。現在までに、平成 16 年度から平成 24 年度までの 9 年間にわたる 55 件のデータを収集した。これらのデータには、懲戒処分が下された事案、懲戒処分が下されなかった事案、処分が確定していない事案の 3 種類が含まれている。55 件の内訳は、社会的な不正・犯罪が 39 件、カンニングなどの試験における不正が 16 件であった。社会的な不正・犯罪は法に基づく不祥事であるが、試験における不正は学則に基づく不祥事であり、不祥事の性質が異なるので分けて考える必要がある。そこで、以下では学外にも影響の大きい不祥事として社会的な不正・犯罪を取り上げることとする。試験における不正に関しては社会的な不正・犯罪と関係する可能性があるため、今後、検討していくが、本報告では割愛している。

社会的な不正・犯罪 39 件に関して年度ごとの発生状況を図 1 に示す。この図から次の事がわかる。平成 24 年度は 12 件の事案が発生し、次に多かったのは平成 21 年度の 6 件であった。平成 24 年度を除いた平成 16 年度から平成 23 年度までの 8 年間に着目すると、平均 3.4 件の割合で事案が発生していた。したがって、平成 24 年度は直近 8 年間の 3.5 倍の件数であった。以上の事から平成 24 年度の件数が突出して多かったことがうかがえる。

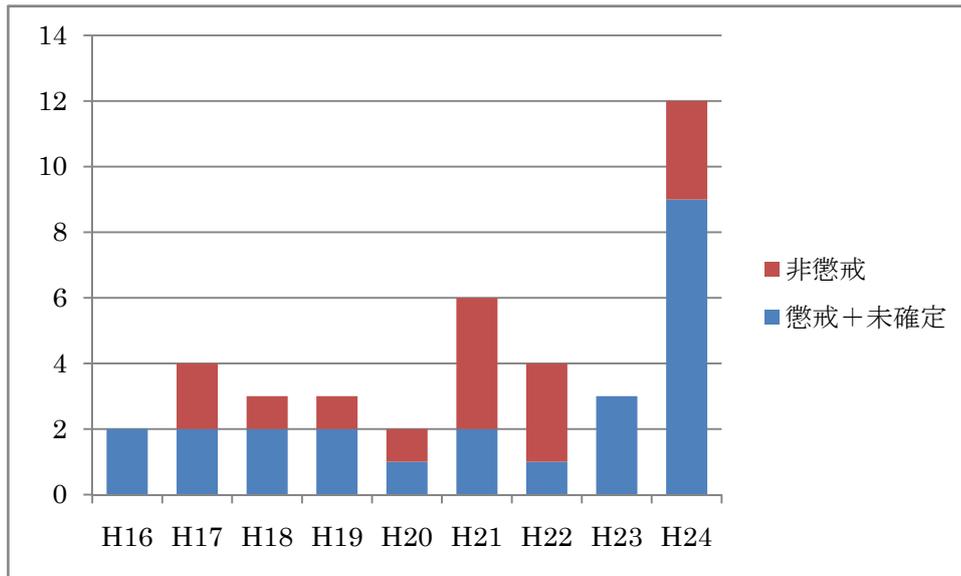


図1. 過去9年間の不祥事発生状況(横軸は事案の発生年度、縦軸は件数)

「懲戒」は戒告・停学・退学のいずれかの処分が下されたものである。「非懲戒」は嚴重注意などで済んだものである。「未確定」は現在、処分が確定していないものである。未確定の事案は5件存在するが、懲戒処分になる可能性もあることから「懲戒 + 未確定」として合算して扱った。

2-2. 犯罪種別ごとの分析

次に、犯罪種別ごとの分析を行った。犯罪は一般刑法犯と特別刑法犯に大別できる。一般刑法犯については、警察庁が発表している資料¹を参考にした。犯罪種別と具体例を表1に示す。

過去9年間に発生した社会的な不正・犯罪39件について、犯罪種別ごとに発生状況を分類した結果を図2に示す。

表1. 犯罪種別と具体例

犯罪種別	具体例
凶悪犯	強盗、放火、強姦致傷・未遂
粗暴犯	暴行、恐喝
窃盗犯	侵入窃盗、万引き、置引き
風俗犯	公然わいせつ、強制わいせつ
建造物等損壊	室内備品の破壊
名誉毀損	インターネット上での不適切発言
住居侵入	アパート、一般家庭、無人建造物への侵入
占有離脱物横領	自転車の持出し
道交法ほか	ひき逃げ、酒気帯び運転、未成年者飲酒、銃砲刀剣類所持

¹たとえば、警察庁「平成24年上半期の犯罪情勢」2012年10月02日など。

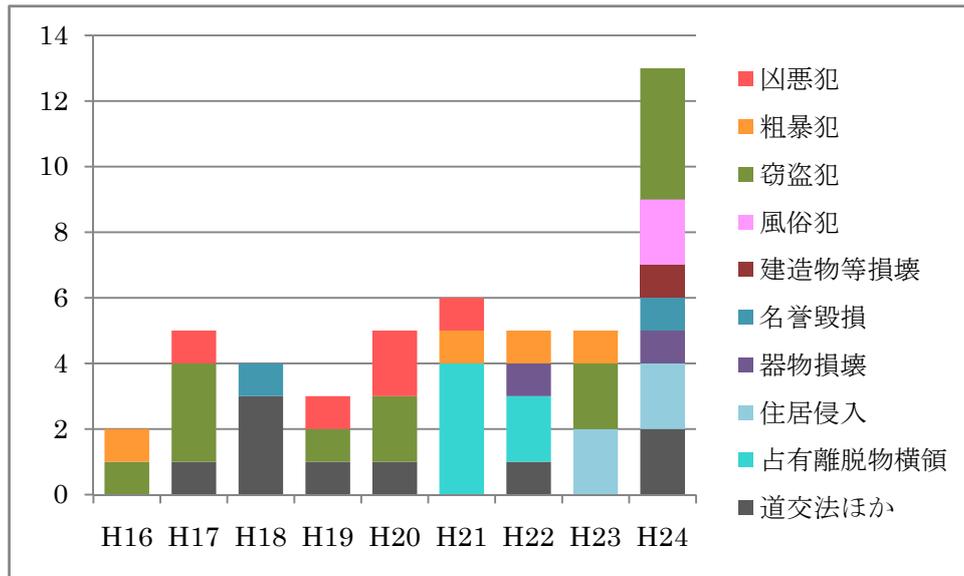


図2. 過去9年間の犯罪種別毎の発生状況(横軸は事案の発生年度、縦軸は件数)

1つの不祥事で複数の犯罪を引き起こしたものがあつた(例えば未成年者飲酒をして器物損壊した場合など)。この図では、それぞれを1件として扱つた。このため、図1の件数より多くなつていることに注意。

図2を見ると、平成24年度は、窃盗犯がやや多いものの、風俗犯や住居侵入、道交法違反など種々の犯罪が発生したことがわかる。ただし、凶悪犯や粗暴犯は発生しなかつた。また、平成21年度は自転車の持出しが特に多かつたことがわかる。

2-3. 個別の事案分析

次に、個別の事案の詳細分析を行った。この分析のための情報は、学内記録や学生の反省文など、平成22年度以降の情報を中心に収集した。平成22年度以降、何らかの懲戒処分があつた事案は27件であつたが、このうち8件は試験における不正であつた。試験における不正を除いた19件のうち、感想文やアドバイザーによるヒアリング情報を入手できたのは11件であつた。以下、この11件について内容を分析した。

11件の主な行為は窃盗、住居侵入、器物破損、未成年者飲酒、名誉棄損などであつた。反省文やアドバイザーのヒアリング結果の記述をプロジェクトメンバー全員で検討したところ、幾つかの事案で事案を引き起こした学生の規範意識の未熟さ、自分の行為がもたらす結果に対する予見不足、責任感の不足が見られた。これらの状況を概観するために、これらの11事案について詳細に分析し、整理した結果を表2に示す。

11件の事案を分析した結果、9事案において規範意識が未熟であつた。この規範意識について検討する際、当初は「規範意識が高いか、低い」あるいは「規範意識が有るのか、欠如しているのか」という観点で分析を試みた。一般的には、悪いと分かつていて不正を働く場合を指して「規範意識が低い」とか「規範意識が欠如している」などと言うのであろう。しかし、反省文やヒアリング結果を詳細に検討していく過程で、そもそも悪いということがわかつてないのではないかと思える事案が多数みられた。

これは意識の発達度合に着目した見方である。そこで、「高いか、低い」という観点ではなく、「規範意識の発達度合」という観点に切り換えたところ、各事案を理解しやすいことが判明した。以上のことから、表2の「規範意識」は「規範意識の発達度合」という観点で整理してある。

表2. 個別事案の分析結果

番号	規範意識	結果の予見	責任感
1	極めて未熟	無かった	不足
2	やや未熟	無かった	不足
3	極めて未熟	無かった	不足
4	未熟		
5	選択的に極めて未熟		
6	未熟	無かった	不足
7		無かった	不足
8			かなり不足
9	選択的に極めて未熟	全く無かった	かなり不足
10	極めて未熟	全く無かった	かなり不足
11	やや未熟		有る

注)
 規範意識 面談レポート等の提出期限を守るとか、教員の質問に嘘をつかないといった基本的なルールの順守に関する意識。
 結果の予見 不祥事を引き起こした場合、実名報道などで社会的な制裁を受けたり、学内においても停学などの大きな損失を受けるということを予め考える力があるかどうか。
 責任感 自分が取った行動に対して責任を取ろうとする意識を持っているかどうか。

表中の記述についての補足であるが、「極めて未熟」は、重要な面談を無断欠席したまま自分からは何もフォローしないと、出していない提出物を出したと平気で嘘をつくといった、極めて稚拙な行動を指す。また、「選択的に極めて未熟」は、大学生活の中では規範意識に関して何ら問題が無いにも関わらず、引き起こした不祥事の結果を見ると極めて未熟としか言えないケースである。これは場面に依存して規範意識が変わると考えられるケースである。こうした場面依存のケースも含め、「極めて未熟」と判断されたケースは11件の約半数(5件)であった。

「結果の予見」に関しては、「無かった」あるいは「全く無かった」が7件だった。この7件の学生は先のことを考えることができずに不正を引き起こしていたということがわかる。「責任感」に関しては、「不足」あるいは「かなり不足」が8件だった。このことから自分の行為に対する責任感の無さが見てとれる。以上、先の事を考えることができていない点と、自分の行為に対する責任感の無さも、不祥事を起こした学生の規範意識の未熟さを裏付けるものと考えられる。

3. 原因の考察

この章では、前章で示した「過去の発生状況」や「犯罪種別ごとの分析」、「個別の事案分析」のそれぞれについて、原因を考察した。さらに、なぜ山形大学でこのような不祥事が立て続けに発生したのかに関して考察した。

3-1. 過去の発生状況及び犯罪種別に関する考察

過去9年間の不祥事発生状況を調べたところ(図1)、特に社会的な不正・犯罪は、平成24年度になって急増したことが明らかになった。また、犯罪種別毎の発生状況を調べたところ(図2)、平成24年度は窃盗犯をはじめ、住居侵入や器物損壊といった幾つかの犯罪が増加したことが判明した。これらの状況がなぜ発生したのかについては、現時点では情報が十分ではなく、今後も調査する必要がある。

3-2. 個別の事案分析

個別事案の検討をしたところ、期限を守るとか、嘘をつかないといった社会的なルールを守るという意味での規範的意識の未熟さが見えてきた。このことから、まだ十分な情報がそろっていないものの、一つの仮説として不祥事の発生には「規範意識の未熟さ」が重要な要因であると考えられる。

規範意識が未熟であるため、そもそも何が悪いことなのかの認識が育っていないと考えられる。そして、未熟さゆえに自分が不祥事を起こすと、その結果として自分自身がどんな不利益を被るのかを予見できない。加えて、周囲に対してどのような迷惑をかけるのかも予見できないため、自分の行為に責任を取ることができない。

なぜ、規範意識が未熟なのかについての原因解明は、医学的な側面や心理的な側面などを検討していく必要があるが、一つ考えられるのは、心理学的な発達段階でのつまずきである。すなわち、幼少のころから、成長において、乗り越えるべき発達課題を乗り越えておらず、大学生になっても未熟な部分が残ってしまったという仮説である。一般に、発達段階としては、愛着の形成や、しつけの習得、自我の形成段階などがある。これらのうち、「群れ」の段階でつまずくと、他者との関わりができないままになる。他者との関わりは社会的な行動の基本であることから、結果として社会的な規範意識が十分に育成されず、平気で嘘をつくようになる可能性がある。今後は、こうした仮説について検証していく必要がある。

3-3. 「なぜ山形大学なのか」に関する考察

田村(2007)は、わが国の大学の分散キャンパスに関する研究を行った。それによると、分散キャンパスは、展開範囲で見た場合「県内型」と「全国型」に大別できる。また、分散形態で見た場合「スター型²」と「延長線型³」に大別できる。国立大学は県内型のみで、全国型は存在しない。この分類によると山形大学は県内・スター型に該当する。田村(2007)は、「キャンパス数、延長距離から見て、北海道教

² 本部キャンパス中心に同心円状に分散。

³ 同一鉄道路線、同一幹線道路等の延長に分散。

育大学、信州大学、山形大学の3大学の分散度が抜きんでて高いことがわかる」と述べている⁴。そのほかの県内・スター型大学は、分散度の高い方から順に、香川大、九州工業大、千葉大、東京大、九州大、神戸大、名古屋大、東北大となっている。

注目すべき点としては、近年、北海道教育大学と香川大学で不祥事が多発した点である。北海道教育大学では、平成21年(2009年)、教職員や学生の不祥事が5件発生した⁵。これを受けて9月から翌年3月にかけて有識者会議が開かれた。香川大学では、平成22年(2010年)、学生による不祥事が3件発生した。また、不祥事ではないものの、学生の危機管理の点からは無視できないものとして信州大学の事案がある。信州大学では、学生の自殺が急増したため対策チームを設置したとの内容が、平成23年6月の経営協議会 議事要録で公開されている⁶。

現時点では山形大学に不祥事が集中する明確な理由は見つかっていない。しかしながら、北海道教育大学や香川大学で不祥事が多発し、信州大学で自殺者が急増したことを考慮すると、「分散度の高さ」というものが「なぜ山形大学なのか」の理由の一つになるのではないかと推測される。ただし、単に分散しているというだけで理由を解釈することはできない。田村(2007)は、「私立大学の特徴的な点は、各キャンパスの独立性が高く、分散キャンパスによるデメリットをさほど大きく感じていない」としている。実際、今回の調査の中で、ある私立大学にヒアリングしたところ、不祥事が集中するなどの問題は発生していないとのことだった。

いずれにしても、分散度の高さが理由なのかについては、実証的なデータが少ないため、今後も継続調査しなければならない。

4. 対策案

本報告で提示した「規範意識の未熟さ」が重要な要因であると仮定すると、次のような対策が考えられる。大学としての取組みについては、正規の授業として、カリキュラムに規範意識を醸成する授業を取り入れることなどが考えられる。教員一人ひとりの取組みについては、教職員研修において、学生の規範意識に関する問題やそれを解決する指導方法を扱うことなどが考えられる。学生一人ひとりの取組みについては、オリエンテーションや各種ガイダンスで規範意識に関して啓発することなどが考えられる。

4-1. 大学としての取組み

規範意識を醸成するような取組みが求められる。たとえば初年次教育において社会的なルールを再学習する授業を導入することが考えられる。たとえば「群れ」を作り、社会性を習得していくような授業が有効であろう。具体的には小集団活動を伴うような授業で、特に学内だけにとどまらず、学外に出るような授業が効果的になると推測される。

⁴ 田村幸男(2007). わが国の分散キャンパスの研究 ―実態の調査・分析とメリット化策の提案― 山形大学紀要(社会科学)第37巻第1号.

⁵ 北海道教育大学における倫理・人権教育の在り方等に関する有識者会議(2010). 北海道教育大学における不祥事防止策について ―快適なキャンパスライフの中にも凛とした雰囲気づくりを― (報告)

⁶ 「第37回国立大学法人信州大学経営協議会議事要録」(ホームページ上で公開)

4-2. 教員一人ひとりの取組み

教員は、授業や研究指導において、学生に種々の社会的なルールを守らせるようにすることが大切になる。提出物の期限や面談の約束を守らなかった場合、安易に大目に見ることは規範意識の成長を妨げることになるため、ルールが守られなかった場合の措置を予め定めておき、その通りの結末を体験させる必要がある。この際、注意しなければならないのは、罰を与えるのではなく、学生の成長のためという教育的な観点を忘れないという点である。罰を与えると、規範意識が醸成されるどころか、学生は罰逃れに走りがちになる。罰ではなく、ルールを守らなかったことによる措置を教員と学生双方が事前に確認しておき、ルールが守られなかった場合は、その通りに実行する。こうして自分で責任を取ることが学ばせることが大切である。ただし、救済措置を用意するなどの工夫は必要になるであろう。

4-3. 学生一人ひとりの取組み

学生一人ひとりに対しては、オリエンテーションなどの場で働きかける必要がある。ルールを守ることの重要性と、万が一、不祥事を起こした場合、どのような結末になるのかの基本的な法律や規則に関する知識を教えることも考えられる。具体的には以下のようなことを伝えていく。

学生には、教員との約束や授業、研究室でのルールを守ることが求められる。これは当然のことであるし、多くの学生はそれができているはずである。一部の学生が、ルールを守れない状況であるので、多くの学生は、それらの学生に加担しないことが大切になる。たとえば、代返を頼まれたり、本人が持つて行くべきレポートを代わりに持って行ってほしいと頼まれたとしても安易に引き受けないということである。こうすることが、お互いの成長にとって大切になる。

また、日頃から、自分の事を話せる友人などが少ない人や、極めて限定的なグループとしか付き合い合わない人は知らず知らずのうちに自分の常識が一般社会の常識とズレてしまうことがある。これが社会性の欠如につながる。このようなことを防ぐ意味でも、自分のことを話せる相手を増やす努力をすることが大切になる。それも、自分と異なる立場、年齢の人がその相手であればなお良い。

ただし、自分の事を話せる友人が少ない学生の場合、単に「努力しましょう」と掛け声をかけても実際には動けない可能性が高い。そこで、大学側としても何らかの支援が必要になる。これには、たとえば上記の「大学としての取組み」と関連するが、参加・体験型の授業を増やすといったことが考えられる。いずれにしても、こうした取組みについては、今後行うアンケート結果の分析を基に、具体的に策定していく必要があるだろう。

5. 今後の計画

最終報告に向けての取組みとしては、今後、以下のように質的・量的調査を行い、可能な限り根拠を明確にした対策を提案できるようにする。

- ・質的調査(4月～7月)
 - ・アドバイザー教員・指導教員へのヒアリング
 - ・学内の生協、周辺の小売店、アパート・寮の大家さんなどへのヒアリング
 - ・地域住民へのアンケート調査やヒアリング
 - ・識者・他大学関係者へのヒアリング(最近の学生の一般的な現状と不祥事に対する考え方や、対策に関する知見を得ることが主目的)
- ・量的調査(4月～6月)
 - ・アンケート調査(山形大学の学生の現状を把握することが主目的)
- ・今回の不祥事多発の原因の質的・量的な分析、考察(7月)
- ・不祥事防止の対策立案(7～8月)

6. まとめ

平成25年2月27日からスタートした山形大学不祥事防止検討プロジェクトチームの活動について、約1か月間の取組みをまとめた。

過去9年間の事案を分析したところ、平成24年度は直近の8年間と比べ3倍強の不祥事が発生したことが明らかになった。さらに、個別の事案を検証したところ、多くの事例で規範意識の未熟さがみられることが分かってきた。この理由の一つとして、心理的な発達段階のつまずきが考えられる。また、山形大学に不祥事が多発した原因を考察したところ、分散キャンパスの可能性が示唆された。

以上の結果は、現時点では仮説の段階であり、今後、最終報告に向けて検証を進めているものである。

正しく生きることで未来を切り開く

～ 山形大学に入学したみなさんに、今、どうしてもお伝えしたいこと ～

ご入学おめでとうございます。みなさんは、すでに成人している方も含め、在学中に、全員が成人します。つまり、「学生」という立場ですが、「社会人」としての第一歩を、在学中に踏み出すわけです。

大学卒業後のグローバル社会は、70億人がそれぞれの個性と価値を発揮し、国境を越えて“協調”と“協働”を重ね、これまでにない創造的方法であらゆる困難を打ち破り、より良い世界を創り出そうというダイナミズムで、満ちあふれています。

その社会において、自らが革新的な“技術”や“アイデア”を創出する、医療技術をもって人の“いのち”や“こころ”を救う、イノベーションを創出する“人”を育てる、お客様や地域の皆様に“幸せ”を生み出すため命懸けで尽くすなど、みなさんは、みなさん自身の望む方法で、世界をより良い方向に変革し続けます。

まだ、はっきりと目に見えていない場合でも、みなさんは、心に大きな「夢」をもっています。みなさん一人ひとりの「夢」の実現のため、大学では、どんなに苦しくても、目線を高く上げて、学び続ける必要があります。みなさんは、みなさん自身の成長につながると感じられることであれば、やってみたいと思うことを、やってみたいと思うときに、徹底的に全部やり抜いてください。みなさんは、その“自由”も、手に入れています。

一方で、グローバル社会では、ルールの遵守が求められます。日本型ビジネスの習慣が、米国ではカルテルを指摘され、数百億円の罰金だけではなく、関係者の多くが米国で長期の禁固刑に処されています。また、世界的大企業が粉飾決算の発覚であつという間に倒産に追い込まれ、コソコソと築き上げた“資産”や“信頼”の全てを失っています。ビジネスで“信頼を失う”とは、市場からの強制退場を意味します。

みなさんが、グローバル社会で価値を発揮し続けるためには、それぞれの社会でのルールや、それぞれの社会での正しいこと、つまり、“社会レベルでの倫理(エシックス)”と、“個人レベルの倫理(モラル)”の両方を重視しながら生きることが大切になります。倫理なき者は、いつかそれぞれの活躍のステージから、同情を得ることなく、強制的に排除されます。

大学時代に、「学生」気分で、人の自転車を無断で持ち出し窃盗罪で拘束される、魔が差して販売されている商品を持ち出し現行犯で逮捕される、軽い気持ちのカンニングで停学処分となり留年し、これまでの努力と時間を無駄にするなど、“ほんの些細なこと”とできてしまった心の弱さで、これまで作り上げた“信頼”と、これから未来で生み出す“価値”の多くを失ってしまう場合があります。グローバル社会では、「社会人」であるみなさんが、“今回だけ”と許されることは、一切ないのです。

みなさんは、みなさん自身の心に、大きな「夢」をもっています。
「正しく生きる」ことで、みなさん自身の手で、“未来”を切り開いてください。

基盤教育科目における体験型授業一覧

開講学期	時間割コード	曜日等	校時	開講科目正式名称	主担当教員名	教員所属
前期	78376	水	7・8	舞台をつくる2013(教養セミナー)	山本 陽史	基盤教育院
前期	78621	火	7・8	実践的キャリア教育学(学際)	福島 真司	EM部
前期	78487	木	7・8	映画の都山形に学ぶ part2(教養セミナー)	阿部 宏慈	人文学部
前期	78540	金	7・8	Jリーグと地域社会(地域学)	立松 潔	人文学部
前期	78904	集中		フィールドワーク山形の酒造りと文化-ワイン編-(地域学)	荒木 志伸	基盤教育院
前期	78905	集中		フィールドワーク出羽三山(地域学)	荒木 志伸	基盤教育院
前期	78908	集中		フィールドワーク共生の森もがみO(地域学)	那須 稔雄	地域教育文化学部
前期	78911	集中		やまがたフィールド科学(教養セミナー)	池田 和生	農学部
前期	78912	集中		フィールド科学のテクニック(教養セミナー)	柳原 敦	農学部
前期	78913	集中		山形を元気にする企業家に学ぶ-ホンモノの地域貢献と地域活性化とは何か-(教養セミナー)	福島 真司	EM部
後期	79901	集中		実践的コミュニケーション学(学際)	福島 真司	EM部
後期	79904	集中		フィールドワーク山形の酒造りと文化-日本酒編-(地域学)	荒木 志伸	基盤教育院
後期	79905	集中		最上川の自然と文化(地域学)	下平 裕之	人文学部
後期	79907	集中		フィールドワーク共生の森もがみP(地域学)	那須 稔雄	地域教育文化学部
後期	79909	集中		やまがたフィールド科学2(雪との共生-雪国の自然と生活)-(教養セミナー)	Lopez Caceres Maximo Larry	農学部

【平成25年度から新規開講】

開講学期	時間割コード	曜日等	校時	開講科目正式名称	主担当教員名	教員所属
前期	78392	水	9・10	山形大学って何だろう?(教養セミナー)	山本 陽史	基盤教育院
前期	78902	集中		リーダーシップ論Ⅰ(社会人育成山形講座)(学際)	柴田 孝	渉外部
前期	78903	集中		リーダーシップ論Ⅱ(社会人育成山形講座)(学際)	柴田 孝	渉外部
前期	78910	集中		エコスタジアムプロジェクトを考えよう(教養セミナー)	下平 裕之	人文学部
前期	78906	集中		地域デザイン(社会人育成山形講座)(地域学)	横井 博	渉外部
前期	78907	集中		集落担い手養成プロジェクト1(社会人育成山形講座)(地域学)	横井 博	渉外部
前期	78909	集中		感じる山形1~教科書の向こう側へ~(社会人育成山形講座)(地域学)	滝澤 匡	渉外部
後期	79111	月	3・4	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	貞包 英之	基盤教育院
後期	79136	月	5・6	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	千代 勝実	基盤教育院
後期	79301	水	1・2	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	佐藤 琴	基盤教育院
後期	79312	水	3・4	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	荒木 志伸	基盤教育院
後期	79401	木	1・2	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	山本 陽史	基盤教育院
後期	79608	火	7・8	アドバンスセミナー(アドバンスセミナー)	杉原 真晃	基盤教育院
後期	79912	集中		北欧を巡り、人、歴史、世界遺産から実践的にグローバル感覚を磨く(学際)	竹田 隆一	地域教育文化学部
後期	79902	集中		リーダーシップ論Ⅲ(社会人育成山形講座)(学際)	柴田 孝	渉外部
後期	79903	集中		リーダーシップ論Ⅳ(社会人育成山形講座)(学際)	柴田 孝	渉外部
後期	79906	集中		集落担い手養成プロジェクト2(社会人育成山形講座)(地域学)	横井 博	渉外部
後期	79908	集中		感じる山形2~教科書の向こう側へ~(社会人育成山形講座)(地域学)	滝澤 匡	渉外部

山形大学って何だろう？（教養セミナー） What is YAMAGATA University? (Seminar)

担当教員：山本 陽史(YAMAMOTO harufumi)

担当教員の所属：基盤教育院

開講学年：1年, 2年, 3年, 4年 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：演習

【授業概要】

・テーマ

あなたは山形大学のことをどのくらい知っていますか？ そんな問いに対してあなた自身が答えを出す授業です。

山大学生の皆さん自身が山形大学のなりたちや現在の姿を調べ、将来像を予測し、二つの方法で山形大学を外部に広く発信していきます。具体的な発信方法は以下の二つです。

1. 「そうだったのか、山形大学！」（仮称）プレゼンテーション

8月3日（土）のオープンキャンパスで高校生やその保護者向けに山形大学に対してプレゼンテーション大会を開催します。

2. 書籍「山形大学のいま2014」（仮称）を編集・出版し、来年度の新入生全員や高校に配付します。

・到達目標

1. （大学1年生程度）山形大学の成り立ちや現状と、大学が地域に占める役割を深く知り、山大学生であることの自覚を高め、自らの行動を律する社会性を持つこと。

2. （大学新卒程度の社会人と同等程度）グループワークの中で、他者と協調しつつ各自の役割をきちんと果たせること。

3. 山形大学についての情報を社会に明確に発信できること。

4. （大学新卒程度の社会人と同等程度）情報収集・スケジューリング・プレゼンテーション・文書作成・書籍編集能力を取得すること。

・キーワード

山形大学・社会性・情報収集・情報発信・書籍編集

【科目の位置付け】

大学の理念「人間性」にある「幅広い教養を身につけ、高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えた人材」をめざす授業です。

【授業計画】

・授業の方法

受講生がリサーチャー・プレゼンター・エディターを担う学生主体の授業です。教員はプロデューサー・コーディネーター・アドバイザーの立場に（できるだけ）徹します。前半は山形大学についての情報収集（インタビュー取材、アンケート調査、インターネットでのリサーチ、文献調査など）、後半はプレゼンテーション（2013年8月3日）の準備と書籍編集作業を中心とします。

・日程

1回目 オリエンテーション、グルーピング

2～7回目 グループごとのテーマ設定・調査・とりまとめ（随時成果発表）

8回目 中間発表会

9～14回目 プレゼンテーション準備・書籍編集作業（追加調査）

15回目 プレゼンテーション大会リハーサル

【学習の方法】

・受講のあり方

次の二つに参加できることが履修のための条件です。

1. 2013年8月3日（土）小白川キャンパスで開催されるオープンキャンパスで開催されるプレゼンテーション大会「山形大学ってこうだった」（仮称）に発表者あるいは運営スタッフとして参加できること。

2. 授業終了後も2014年3月頃まで断続的に行われる書籍編集作業に参加できること。

・授業時間外学習へのアドバイス

取材や編集、プレゼンテーションの準備などは授業時間以外でも作業が必要になります。その労をいとわず、じっくり取り組む心構えを持って下さい。そうすれば必ず大きな成果を生みます。

【成績の評価】

・基準

上に出した「到達目標」をどの程度実現できたか、各自の自己評価に基づいて評価します。他の学生との比較ではなく、個々の成長の度合いを重点的にします。

・方法

プレゼンテーションの成果と、各自が果たした役割を自己申告したレポート、また、この授業を通してどのくらい成長したかを自己評価したレポートを基本に、教員の観察を含めて評価します。なお、出席は評価のための当然の前提です。理由のない欠席は社会に出る準備期間としての大学生失格です。

プレゼンテーションの成果 30%/役割自己申告レポート 30%/成長度自己評価レポート 40%

【テキスト・参考書】

特にありませんが、文章作成や校正用のハンドブック、あるいは担当教員が過去に出版した本などを適宜紹介します。また、スタートアップセミナーテキスト『なせば成る！』は情報収集や文の書き方、プレゼンテーション作成の参考になりますので授業に持ってきて下さい。

【その他】

・学生へのメッセージ

この授業は特に以下のようなあなたへの特効薬です。

センター試験の成績とか、地元だからとか、周囲の勧めでとか、自分の意思よりも別の理由で入学した人/入学したけれど正直「ちょっと不本意」と思っている人/大学に入る目標が実現してしまったので次は次の目標が見つからない人/せっかくだから自分が学ぶ大学のことを知りたいけれどどこから手をつければいいのかわからない人・・・えいやっとまとめると、何かもやもやした気分を持っている山大学生のあなた、自分が学ぶ山形大学について深く知ることでスッキリした気分になりますよ。

もちろん山形大学について一通りの知識はあるけれど、さらによく知りたいという意欲を持っているあなた、さらにプレゼンテーション能力を伸ばしたいあなた、書籍編集を通して得意（あるいは苦手？）な文章・写真・イラストの才能を発揮したいと思っている方も歓迎です。

・オフィス・アワー

水曜3・4校時

山形大学学生の懲戒に関する規程

本学学生の懲戒について、適正かつ公正な運用を図るため、懲戒の手続きや、その効果等について必要な事項を定めることを目的に、山形大学学生の懲戒に関する規程が制定され、平成25年4月1日より施行されます。



【懲戒の対象行為】



「犯罪行為」「交通事故等」「試験における不正行為」

【懲戒の内容】・・・「戒告」「停学」「退学」

【停学の種類】・・・「無期」又は「有期」

【試験における不正行為（カンニング）】

- ・試験における不正行為は懲戒の対象となります。
- ・不正行為を行った科目は**不合格（0点）**となります。
- ・それ以外の当該学期の履修登録科目は、原則として、**すべて履修取消**となります。

この規程の内容については、本学HPで閲覧できます。



平成24年度、犯罪行為による本学学生の逮捕者は7名、試験における不正行為（カンニング）による懲戒処分者は4名に上ります。

自らの軽率な行動が、これからの自分の人生に大きな傷跡を残すことになるとともに、家族や友人、恩師等、多くの人々の信頼を裏切り、本学に対する信頼をも一瞬にして揺るがします。

自己の行動が、自分ひとりの問題では済まされない結果を招くことを改めて自覚してください。

山形大学生としての誇りを持って学生生活を送ることを望みます。

正しく生きることで未来を切り開く

～ 山形大学で学ぶみなさんに、今、どうしてもお伝えしたいこと ～

新たな年度を迎えました。厳しい寒さの冬が終わり、春がきました。郷里で成人式を迎えたばかりの方も含め、ほとんどのみなさんは、すでに成人を迎えています。みなさんは「学生」という立場ですが、すでに「社会人」として歩みを始めています。

大学卒業後のグローバル社会は、70億人がそれぞれの個性と価値を発揮し、国境を越えて“協調”と“協働”を重ね、これまでにない創造的方法であらゆる困難を打ち破り、より良い世界を創り出そうというダイナミズムで、満ちあふれています。

もうすぐその社会で、自らが革新的な“技術”や“アイデア”を創出する、医療技術をもって人の“いのち”や“こころ”を救う、イノベーションを創出する“人”を育てる、お客様や地域の皆様の“幸せ”を生み出すため命懸けで尽くすなど、みなさんは、みなさん自身の望む方法で世界をより良い方向に変革し続けます。

まだ、明確になっていない場合でも、みなさんは、心に大きな「夢」をもっています。みなさん一人ひとりの「夢」の実現のため、大学では、目標を高く持ち、苦しくとも学び続ける必要があります。そして、自分自身の成長につながると感じられることであれば、やってみたいと思うことを、やってみたいと思うときに、徹底的に全部やり抜いてください。みなさんは、その“自由”も、手に入れています。

一方で、グローバル社会では、ルールの遵守が求められます。日本型ビジネスの習慣が米国ではカルテルを指摘され、数百億円の罰金だけではなく、関係者の多くが米国で長期の禁固刑に処されています。また、世界的大企業が粉飾決算の発覚であつという間に倒産に追い込まれ、コソコソと築き上げた“資産”や“信頼”の全てを失っています。ビジネスで“信頼を失う”とは、市場からの強制退場を意味します。

みなさんが、グローバル社会で価値を発揮し続けるためには、それぞれの社会でのルールや、それぞれの社会での正しいこと、つまり、“社会レベルでの倫理(エシックス)”と、“個人レベルの倫理(モラル)”の両方を重視しながら生きることが大切になります。倫理なき者は、社会というステージから、排除されます。

「学生」気分で、人の自転車を無断で持ち出し窃盗罪で拘束される、魔が差して販売されている商品を持ち出し現行犯で逮捕される、軽い気持ちのカンニングで停学処分となり留年し、時間や機会や、進路先まで失ってしまうなど、「学生」基準での“ほんの些細なこと”で、これまで作り上げた“信頼”とこれから未来で生み出す“価値”の多くを失ってしまう場合があります。グローバル社会では、「社会人」であるみなさんが、“今回だけ”と許されることは、一切ないのです。

みなさんは、みなさん自身の心に、大きな「夢」をもっています。
「正しく生きる」ことで、みなさん自身の手で、“未来”を切り開いてください。

学生の不祥事防止について

－教職員研修資料－

平成 25 年 4 月 1 日

山形大学不祥事防止検討プロジェクト

平成 24 年度に学生の不祥事が多発しました。それを受けて平成 25 年 2 月 27 日に山形大学不祥事防止検討プロジェクトチームが結成されました。現時点では中間報告の段階ですが、できる事ややっても無駄にはならない事に確実に取り組んでいきたいと思えます。学生の不祥事防止のために以下の点についてご検討・ご留意願います。

これまでの調査では、学生の規範意識の未熟さがクローズアップされています。これは、不正かどうかをあまり深く考えてないということと、その後にもたらされる結末(逮捕や実名報道など)の深刻さを全く考えていないこと、他人事でしかないこと、というような意味での未熟さです。まるで幼子が無邪気に行動したかのような事案が多くみられます。

規範意識の未熟さは、個人の発達度合に関わることなので、簡単には改善できないことかもしれません。しかし、今以上に悪化させないことはできるはずです。そのために、以下の3点に要点をしばって、学生をご指導ください。

1. ルールの順守

教員は、授業や研究指導において、学生に種々のルールを守らせるようにしてください。提出物の期限や面談の約束を守らなかった場合、安易に大目に見ることは規範意識の成長を妨げることになります。ルールが守られなかった場合の措置を予め定めておき、「ルールを守らなかった場合の結末」を体験させるよう配慮願います。こうして自分で責任を取ることを学ばせてください。

この際、注意しなければならないのは、「ルールを守らなかった場合の結末」と「罰」は異なるという点です。ルールを守らなかった場合、指導でねらっていることをどうすれば身につけさせることができるかが大事になります。もし、授業のねらいと関係の無い結末(罰)を与えると、規範意識が醸成されるどころか、学生は「どうしたら罰を逃れられるか」という思考になりがちです。

日ごろの授業や研究指導などで難しいのは、「ルールを守らなかった場合の結末」をどの程度のレベルに設定するかでしょう。あまり厳しい結末にしてしまうと、挫折させてしまうだけです。救済措置も設定し、指導のねらいを達成させるよう工夫してください。

2. 安易な嘘をつく学生への注意

「安易な嘘」をついている学生がいた場合、十分に注意を払い、見守ってください。ここでいう「安易な嘘」というのは、ちょっと考えればすぐにばれてしまう嘘のことです。たとえば履修届を出してないのに「出しました」と言ってしまう場合などです。

このような学生がいた場合、授業や研究室、ゼミなどで決められたルールを守っているかを確認してください。また、学生の交友範囲についても可能な範囲で確認してみてください。知り合いが極めて少ない場合や、極めて限定的なグループでのみ活動している場合、自分勝手にルールを解釈したり、嘘をついてしまう可能性があります。

もし、注意が必要な学生がいた場合、どのように対応するのかはケースバイケースであると思います。しかし、どのような場合であっても、その学生のことを知り、把握しておく事は大切です。日ごろはどんな学生なのか、最近どんな様子なのかなどを、可能な限り把握するよう努めてください。

3. 実行にあたって

「ルールの順守」や「安易な嘘をつく学生への注意」は、当たり前の事であり、既に実行している方が多いはずですが。このうち、「ルールの順守」に関して、特に教員のみなさんに意識してほしいことがあります。それは、学生も教員もお互いにルールを守るという事です。「教員だから許される」というわけにはいきません。もし、日ごろのちょっとした取り決めや期限などを教員が守らないと、学生はそれを「ルールは守らなくてもいいんだ」とか「学生との約束を軽視している先生だ」というメッセージとして受け止めるでしょう。図らずも約束を破ってしまった場合は、学生に素直に謝罪するなど、社会人としての振る舞い方を率先して示し、教えてほしいと思います。

お互いにルールを守るという事は、現実の場面ではなかなか難しい場合もあるかもしれません。だからこそ、今一度、この「当たり前の事」に取り組んでいただきたいと思います。ただ、ルールだけで全てをとらえると、どうしても堅苦しくなりがちです。ルールの側面だけでなく、明るく、前向きに、柔軟に、多くの可能性を信じて学生と接してほしいと思います。

平成25年4月2日
山形大学

山形大学演習林が「ふるさと文化財の森」に設定

3月25日付けで、上名川演習林が文化庁よりふるさと文化財の森に設定され、文化庁において、近藤誠一文化庁長官から野堀フィールド科学センター長（山形大学教授農学部）が設定書を交付いただきました。

山形県内では、山形市村木沢・長井市草岡・西川町の漆林が設定されていますが、木材（スギ）は初めての設定となります。

当該地の森林・林分情報

- ① 面積：26.4 ha（内90年生以上18.16 ha）
- ② 林種：人工林 天然林
- ③ 林齢（又は齢級）：53～101年生（11～21齢級）
- ④ 樹種等：単純林 複層林 混合林
- ⑤ 生育状況（推定）

- | | ～90年生 | 90年生～ |
|---------------------------------|--|-----------------|
| 1 樹高 | 平均 <u>15.6 m</u> | 平均 <u>29.3m</u> |
| 2 胸高直径 | 平均 <u>34 cm</u> | 平均 <u>42cm</u> |
| 3 成立本数 | <u>900</u> 本/ha | <u>610</u> 本/ha |
| 4 現状で文化財建造物修理用材として供給が期待できる立木の概数 | ・樹高 <u>24～35 m</u> ・胸高直径 <u>50～80cm</u> ・本数 <u>900</u> 本 | |
| | ※100年生以上の林分における胸高直径50cm以上の個体 | |
| 5 その他 | 総材積13,073 m ³ （内90年生以上9,516 m ³ ） | |



* 上名川演習林：農学部附属やまがたフィールド科学センター流域保全部門の生きた教材として、教育研究、公開事業などで活用されている。朝日山地の急峻な豪雪地帯に位置し、753 haの森林面積のうち、80%がブナ主体の天然落葉広葉樹林。

* ふるさと文化財の森：国宝や重要文化財などの文化財建造物を修理し、後世に伝えていくために、木材や檜皮、茅、漆等の資材確保とこれに関する技能者の育成が必要であり、文化庁では、文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び研修林として設定している。

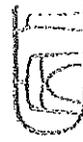
今後の予定

指定された杉の木をこれまで同様管理し、搬出に係る林道整備等の検討を進め、文化庁から文化財修理等の提供打診があった場合、大学として提供を検討することになります。なお、豪雪地ならではの「根曲り材」について、軒材としての提供も要請があれば検討することとなります。

また、「いかに木材が貴重であるか」等、文化財と演習林の関係を含め検討し、子供たちに学んでいただく普及啓発事業について検討を行います。

雪解け5月以降に「ふるさと文化財の森 説明版」を設置し、その際に地域へ説明会を設ける予定です。

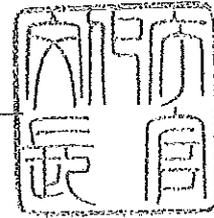
（お問い合わせ）農学部附属施設担当係 TEL0235-24-2278



24庁財第729号
平成25年3月25日

国立大学法人山形大学
学長 結城章夫 殿

文化庁長官
近藤 誠



ふるさと文化財の森の設定について（通知）

平成25年2月5日付け形大総第1249号で申請のあった区域を、
平成25年3月25日付けをもってふるさと文化財の森として設定しました
ので通知します。



設定番号第 47 号

ふるさと文化財の森設定書

山形大学上名川演習林

材 種：木材（スギ）
所在地：山形県鶴岡市上名川字早田川
所有者：国立大学法人山形大学
管理者：国立大学法人山形大学農学部
やまがたフィールド科学センター

我が国の歴史と文化を伝える文化財建造物の保護についての国民の理解を増進し、修理のための資材の安定的確保を図るため、上記をふるさと文化財の森として設定する。

平成25年3月25日

文化庁長官 近藤 誠



平成25年3月5日
山形大学

特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」 －高校生朗読コンクール出場者・群読劇出演者を募集－

今回で第6回目の開催となる「高校生朗読コンクール」への出場者及び群読劇「グスコブドリの伝記」への出演者を募集します。

◆高校生朗読コンクール・群読劇開催概要

日 時：平成25年9月8日（日）13時～17時
場 所：シベールアリーナ

第1部 第6回山形大学高校生朗読コンクール

参加資格：東北6県の高校に在籍する高校生
録音による予選審査を経て、10名程度が本選に出場予定。

朗読課題文：宮沢賢治（岩手県出身）「銀河鉄道の夜」から選定。

第2部 群読劇「グスコブドリの伝記」上演

演 出：佐藤正文氏（演出家、酒田市出身）
出 演：磯部 勉氏（俳優）・益岡 徹氏（俳優）
一般市民（公募）20名程度・山形大学生・山形の子どもたち

上演作品：宮沢賢治「グスコブドリの伝記」

※ 基盤教育「舞台をつくる2013」の受講生を中心に山形大学学生が企画運営にかかわります。

◆背景

・平成20年度から県内の高校生を対象として山形大学が主催してきた「高校生朗読コンクール」は、23年度からは東日本大震災を受け、参加資格を東北6県の高校生に広げて実施。

・昨年度は、特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯に」として、第5回高校生朗読コンクールと、一般市民・山形の子どもたち・山形大学生が出演する群読劇「風の又三郎」を同時開催。朗読コンクールには東北6県の高校から約150人の応募があり、群読劇では女優紺野美沙子さん、俳優益岡徹さんとともに50人を超えるメンバーがステージで熱演。

今年度も、昨年度同様、東北に根ざし東北の心を描いた作家宮沢賢治の作品を取り上げ、賢治が遺した言葉を、復興に立ち向かうための勇気と希望の灯としたい。

（お問合せ先）
山形大学 渉外部 渉外課
電話 023-628-4016

第6回山形大学高校生朗読コンクール

主催) 国立大学法人山形大学 共催) 公益財団法人弦地域文化支援財団

東北6県の高中生から出場者を募集します

山形大学では本年9月8日(日)に、山形市のシベールアリーナを会場として、第6回高校生朗読コンクールを開催します。東北6県の高生の皆さんの多数の応募をお待ちしております。

◎予選募集要項

応募資格: 東北6県(青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島)在住、または各県内の高校に在学中の高校生。
・高等専門学校生は一年生から三年生までのみとします。同一高校からの応募人数制限は設けません。

予選課題: 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」(以下の頁数は、同名の新潮文庫版にもとづく)
157頁本文1行目「ではみなさんは、そういうふうに川だと云われたり」～
159頁5行目「じぶんもカムパネルラもあわれなような気がするのです。」

審査方法: 録音による審査。

応募方法: 上記課題文を朗読・録音し、下記応募受付まで郵送等で送付、あるいは直接持参をお願いします。
録音メディアは、CD-R/USBメモリーのいずれかとします。メディアには氏名を明記してください。

応募締切: 平成25年7月5日(金)(当日必着)

備考: ○メディアは衝撃からの保護を施して、「高校生朗読コンクール応募」と朱書した封筒に入れてください。

○応募の際、以下の項目について記した紙を同封してください。書式は自由です。

- 1) 氏名(よみがな) 2) 性別 3) 学校名、学年 4) 自宅住所 5) 自宅電話番号
 - 6) 携帯電話番号 7) 電子メールアドレス(携帯・パソコンいずれでも可)
 - 8) (高校で取りまとめてご応募の場合) 担当教員のお名前と電話・ファクス・電子メールアドレス等
- ※6・7は必須ではありません。記載情報は本学からの連絡のみに用い、他用途は転用しません。

○予選の録音メディアの費用及び郵送料は自己負担とします。

○予選で大学に送付されたメディアは返却せず、本選後録音を消去します。

○予選は学内の教職員で構成した審査委員会が審査を行い、結果は全応募者に7月末までに自宅に郵送でお知らせします(学校でとりまとめて応募いただいた場合は、学校にも結果をお知らせします)。

○予選通過者を優秀賞として本選に招待します。なお、予選通過者名は公表します。

○文章中の地名や人名等の固有名詞の難読語等の読み方に限り問合せに応じます。

※本選について

日時: 平成25年9月8日(日) 13:00～17:00(時刻は予定)

会場: シベールアリーナ(〒990-2338 山形市 蔵王松ヶ丘2丁目1番3号)

課題: 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」から、予選通過者それぞれに異なる部分を審査委員会が指定します。

備考: ○審査結果通知時にそれぞれの課題部分を指定します。

○作品の内容や量による審査の有利不利は起きないように審査の際に配慮します。

○本選の審査は、学内外のメンバーで構成した審査委員会が行います。

○出場者には本学規定により交通費(県外の方は宿泊費も)を支給します。

○本選の上位3名を山形大学学長賞として表彰します。他に特別賞・会場も設けます。

○優秀賞も含め各賞には賞状・記念品を贈呈します。

○本選は群読劇上演とあわせて催しとして一般公開します(7月ごろ公表予定)。

応募・お問合せ先: 電話によるお問合せは平日9:00～17:00にお願いします。
山形大学 渉外部渉外課 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
TEL: 023-628-4016 FAX: 023-628-4849
E-mail: k-tojyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

群読劇出演者を募集します

山形大学では昨年に引き続き復興に向け東北の力を舞台芸術で結集する取り組みとして、2013年9月8日(日)、シベールアリーナ(山形市蔵王松ヶ丘2丁目1-3)を会場に、宮沢賢治の名作『グスコードリの伝記』に基づいた群読劇(集団での朗読を主体にした舞台)の上演を計画しています。

出演者として俳優磯部勉さん、益岡徹さんをお招きし、一般市民の皆様、山形大学学生とともに東北を応援する舞台を作っていきます。この群読劇にご出演くださる一般市民の方を募集します。

参加資格:本番と原則として稽古の全日程(下記参照)に参加可能な方
年齢や性別、演劇や朗読の経験の有無等はいっさい問いません。
震災の影響で山形に避難されている方々のご参加も歓迎します。

募集人数:20名程度(先着順に受け付けます)

費用負担等:稽古・上演に係る経費等の負担を出演者をお願いすることはありません。

出演料等はお支払いいたしません。

稽古場・劇場への交通費等はご自身でご負担ください。

募集開始:平成25年4月8日(月) 平日09:00~17:00

(先着順に受け付けます)

お申し込み:山形大学 渉外部 渉外課

電話 023-628-4016 FAX 023-628-4849

電子メール k-tojyoki@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※FAX・電子メールでお申し込みの場合には以下の事項を明記してください。

お名前/性別/年齢/ご住所/お電話番号(以上は必須)

(以下はあれば)FAX番号/携帯電話番号/電子メールアドレス

※複数の方で一括お申し込みの場合は、全員の上記情報をお知らせください。

催し物概要・稽古等日程:

主催:国立大学法人 山形大学

共催:弦 地域文化支援財団

演出:佐藤正文氏(演出家、酒田市出身)

出演:磯部勉さん、益岡徹さん、一般市民の皆様、山形大学生等

日程:

・稽古 平成25年5月15日(水) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

6月19日(水) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

7月17日(水) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

7月31日(水) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

8月1日(木) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

9月5日(木) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

9月6日(金) 夜 会場:山形大学小白川キャンパス

9月7日(土) 午後・夜 総稽古 会場:シベールアリーナ

・本番

9月8日(日) 午前リハーサル 午後本番 17:00終了予定 会場:シベールアリーナ

※第6回山形大学高校生朗読コンクールと併せて開催予定

平成25年4月2日
山形大学

山形大学入学式を挙行します。

☆平成25年度山形大学入学式

日時：平成25年4月5日（金）10：30開式

会場：山形県体育館（山形市霞城町1-2）

式次第：

- 平成22年3月に創立60周年を記念して制定した「山形大学大学歌」斉唱
- 学長告辞、新入学生宣誓
- YU Do Best奨学生証書授与、奨学生代表挨拶

※ 式終了後、全入学生を対象とした、小山理事・副学長、富樫保健管理センター所長、先輩学生などによるオリエンテーションと学生サークルによる花笠踊りなどを披露します。

式当日の取材に際しては、壇上での撮影は差し支えありませんが、式進行の妨げとなるような行為は慎んでいただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

また、学長告辞については、当日に配布いたしますが、式終了後に公表願います。

なお、各附属学校（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）の入学（園）式につきましても、併せてお知らせいたします。

附属学校	日時	開式時刻	会場	問い合わせ先
附属幼稚園	平成25年4月10日(水)	午前10時00分～	附属幼稚園遊戯室	023-641-4446
附属小学校	平成25年4月8日(月)	午前9時30分～	附属小学校体育館	023-641-4443
附属中学校	平成25年4月8日(月)	午後1時30分～	附属中学校体育館	023-641-4440
附属特別支援学校	平成25年4月11日(木)	午前10時00分～	附属特別支援学校体育館	023-631-0918

（お問い合わせ）

山形大学総務部総務課

（TEL）023-628-4006

平成25年4月2日
山形大学

1. 平成25年度 小白川キャンパス「トワイライト開放講座」の受講生募集

山形大学小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として、広く開放します。（理学部の授業科目は一般市民の方にも開放します。）

◆ 募集締切

前期開講分…平成25年4月8日(月)

後期開講分…平成25年9月20日(金)

◆ 対象者 高校生（理学部の講座は、一般市民の方も歓迎）

（受入れ可能人数を超えたときは、受講をお断りする場合があります。）

◆ 受講料 無料

◆ 場 所 山形大学小白川キャンパス内の各講義室(それぞれ指示された場所)

◆ 開講する時間帯 午後4時30分から午後6時まで

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

2. 「東北から見える日本—文学・芸術の風景—」を出版

山形大学出版会から、「東北から見える日本—文学・芸術の風景—」を出版しました。

藤沢周平、井上ひさし、司馬遼太郎ら著名な作家たちが東北を舞台として紡いだ物語の魅力と、その背景に込められた想いを読み解きます。

著者:山形大学 基盤教育院 山本 陽史 教授

定価:800円(税込み)

[詳しくは、別添の資料をご覧ください]

平成25年度 山形大学小白川キャンパス 「トワイライト開放講座」の受講生募集

山形大学小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として、広く開放いたします。（理学部の授業科目は一般市民の方にも開放します。）

この機会に、山形大学キャンパスで大学生と一緒にさまざまな講義を体験してみましよう！



山形大学では、次の要領により受講生を募集いたします。

◆ 募集期間

前期開講分（平成25年4月～平成25年7月）

…募集締切 平成25年4月8日（月）

後期開講分（平成25年10月～平成26年2月）

…募集締切 平成25年9月20日（金）

* 募集の締切り終了後においても、受講生数の調整が可能であれば受け付けられますので、担当窓口まで御相談ください。

◆ 対象者 高校生

理学部の講座は、一般市民の方も歓迎。

（受入れ可能人数を超えたときは、受講をお断りする場合があります。）

◆ 受講料 「無料」 です。

◇ 開講時間帯・場所及び受講申込みの方法は裏面をご覧ください。 ◇

◆ 場 所
山形大学小白川キャンパス内の各講義室（それぞれ指示された場所）

◆ 開講する時間帯
開講時間は、所定日の「午後4時30分～午後6時」です。
なお、遅刻しないようご留意願います。

◎ 受講申込みの方法

受講申込書に、受講希望日、氏名等の必要事項を記入の上、下記の申込先へファックス又は直接持参願います。

持参する場合の受付は、土・日・祝日を除く「午前9時～午後5時」とします。なお、高校生の方は、所属の高校経由で申し込んでください。

◎ 申込先・問い合わせ先（全体受付の平成25年度担当窓口）

〒990-8560

山形市小白川町一丁目4-12

山形大学学生センター人文学部担当

電 話 023-628-4709 FAX 023-628-4713

E-mail kmkyom-jin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

◆ その他注意事項

① 山大生と一緒に受講することになりますので、講義室内では担当教員の指示に従ってください。

② 担当教員の都合等により休講又は授業日に変更になる場合があります。

③ 「トワイライト開放講座」受講による単位認定等はいませんが、希望者には開講期終了後に「受講証明書」を発行しますので、その旨申し出てください。

④ 受講申し込み後、都合により受講できなくなった場合は、下記に連絡してください。

○人文学部の開講科目

学生センター人文学部担当

電話 023-628-4709 FAX 023-628-4713

○地域教育文化学部の開講科目

学生センター地域教育文化学部担当

電話 023-628-4309 FAX 023-628-4713

○理学部の開講科目

学生センター理学部担当

電話 023-628-4508 FAX 023-628-4713

⑤ 受講生への連絡事項及びその他必要な情報は、それぞれのホームページ上に掲載します。

○人文学部ホームページ (<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/>)

○地域教育文化学部ホームページ (<http://www.e.yamagata-u.ac.jp/>)

○理学部ホームページ (<http://www-sci.yamagata-u.ac.jp/>)

東北から見える日本

— 文学・芸術の風景 —

藤沢周平、井上ひさし、司馬遼太郎ら、著名な作家たちが東北を舞台として紡いだ物語の魅力と、その背景に込められた想いを読み解く。

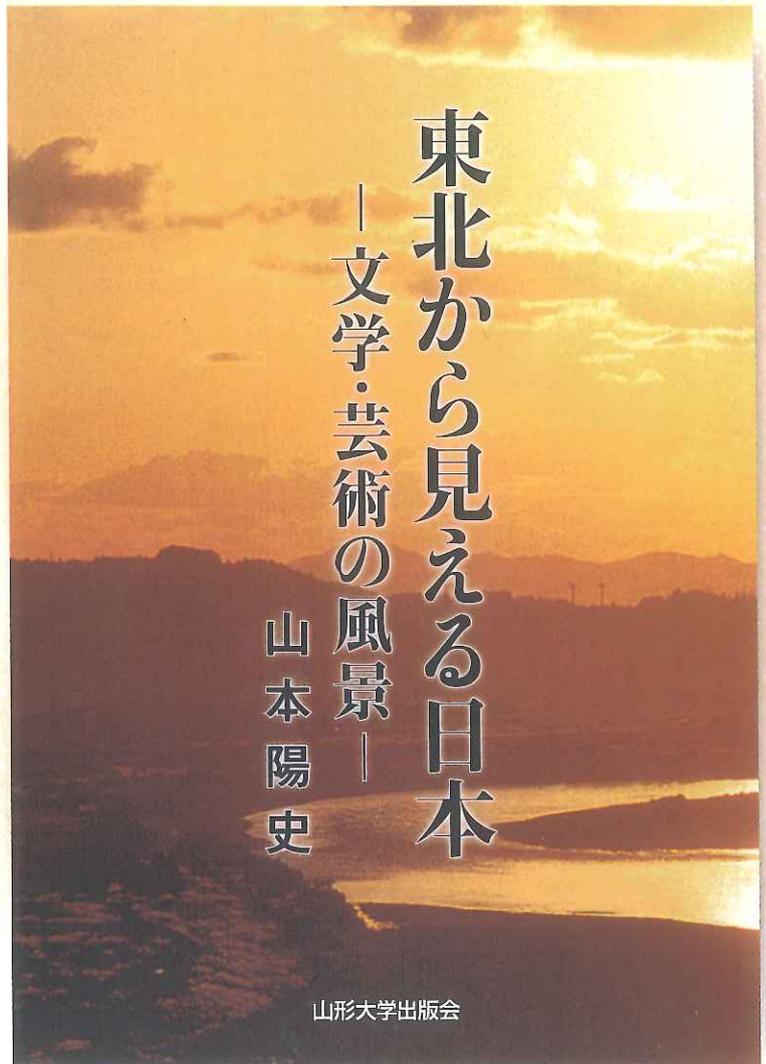
作品の世界観から山形を再認識し、東北の明日への道しるべとなる"言葉"を探す。

読売新聞山形版で連載した文章と新たに書き下ろした文章にて構成された第1章と2章、二人の作家の作品から未来への道標となるメッセージを読み解く第3章の3部構成。

- 第1章 「江戸と海坂と 藤沢周平文学周遊」
- 第2章 「豊饒の山河 やまがた文学・芸術紀行」
- 第3章 「井上ひさしの東北／司馬遼太郎の日本 3・11からの出発のために」

山形大学教授
山本陽史 著

体裁◎A5版218頁 定価◎本体762円＋税



発行
山形大学出版会 〒990-8560 山形県山形市小白川町1-4-12
TEL023-677-1182 FAX023-677-1129

取扱書店	発売所名 山形大学出版会	山形県山形市小白川町1丁目4-12 TEL023(677)1182
	東北から見える日本 — 文学・芸術の風景 — ISBN978-4-903966-16-8 C1095 ¥00762E	定価 本体762円(税込800円)
		注文数 冊

月
日